

1. はじめに

- ## 2. 議論の状況

2.1 A-LCA IWGの概要

-

図1 第17回IWG（2024.9.26-27）の様子

表1 A-LCA IWGにおけるSGの構成

	担当領域	リーダー
SG1	Overarching aspects	IWG Chair (日本)
SG2	Material & Material recycling	日本
SG3	Parts & Vehicle production	韓国、中国、OICA、CLEPA
SG4	Use	欧州委員会、OICA、AVERE
SG5	End of Life	日本 、中国
SG6	Fuel & Energy Cycle	日本 、AVERE
SG7	Drafting	フランス、OICA

AVERE : 欧州電気自動車協会

2.2 サブグループの構成

- 自動車のライフサイクルの各段階に対応するSGをIWGの下に設置し、専門的な議論を進めている。
- 日本は、SG1、SG2、SG5、SG6でリーダーを務めるほか、全SGにエキスパートを登録し、積極的に関与している。

2.3 レベルコンセプト

- A-LCAの手法開発において、1次データの取得可能性が重要な論点の1つとなっている。
- 1次データの適用範囲に応じて4段階のレベル分けを行う「レベルコンセプト」が韓国から提案された。レベル1は統計等からの2次データを使用し、レベルが上がるにつれてメーカー特有の1次データの適用範囲を広げるというものである。

2.4 サブグループの進捗

- ・ カットオフルール、データ品質基準、インフラの扱いなど横断的な論点が議論中であるが、各SG特有の方法論の議論は概ね終了し、ドラフティングが進んでいる。

3. まとめ

- A-LCA IWGは、2025年3月まで21回、SGについてもSG1とSG7以外はほぼ毎月開催され、非常に精力的に議論が進められている。
- 日本は共同議長ならびに複数のSGリーダーを務めるなど積極的に関与している。
- ドラフティングが進んでおり、2025年3月の第92回GRPEでInformal Documentとしてドラフトを提出した。

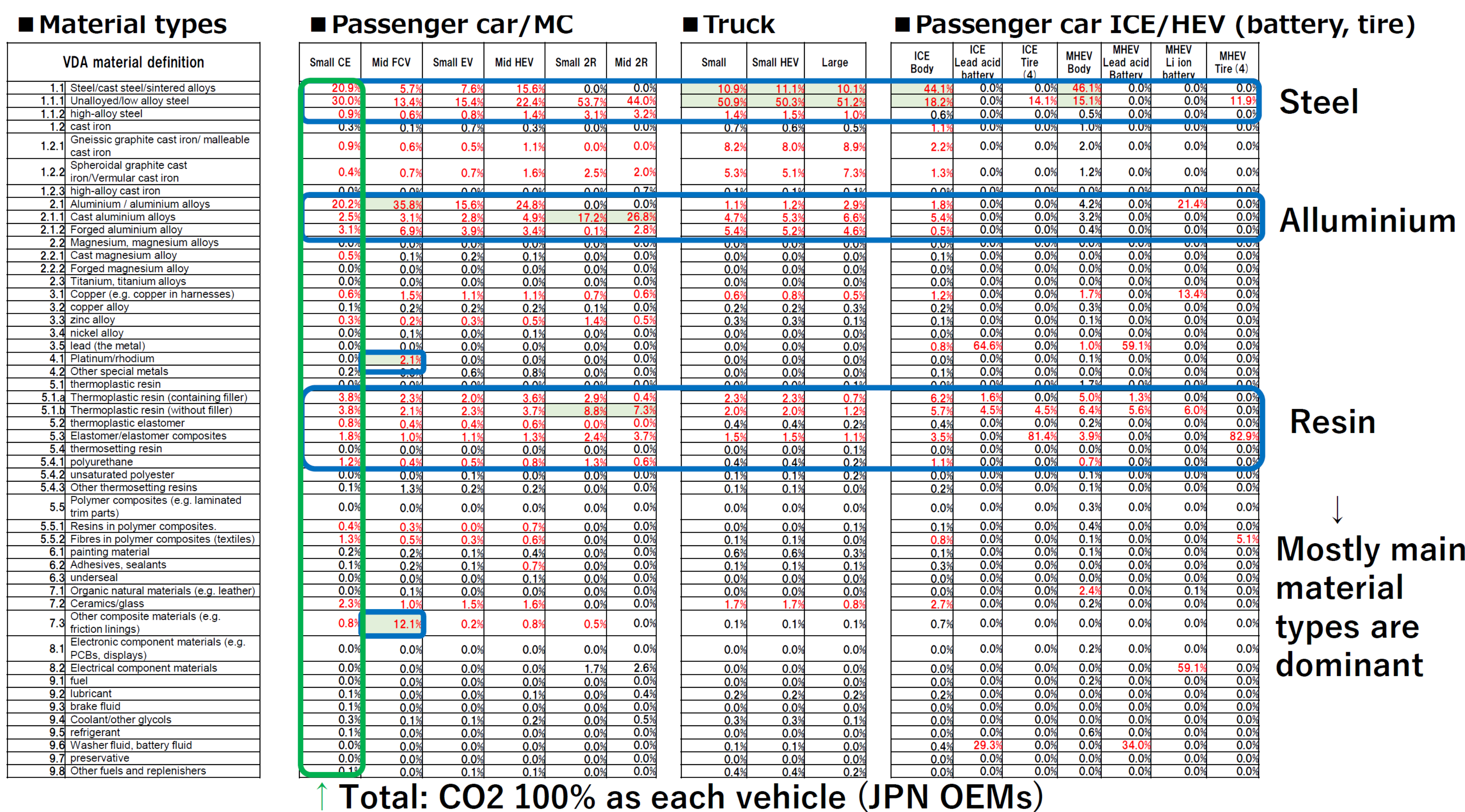


図2 素材製造におけるCO₂排出ホットスポットの初期解析結果